

平成 21 年 7 月 14 日

西鉄柳川駅周辺の将来像についての提言を行います

～観光と生活の拠点形成を目指します～

柳川市や西日本鉄道(株)を含む各種団体が参加した「柳川駅周辺まちづくりワークショップ」(座長:九州大学 出口 敦教授)では、金子健次・柳川市長に対し、西鉄柳川駅周辺の将来像に関する提言を7月16日(木)に行うことになりましたのでお知らせいたします。

柳川市の中心部に位置する西鉄柳川駅は、福岡市から約50km、特急電車で約45分の位置にあります。同駅は、旅行者の観光拠点と生活利用者の通勤・通学拠点の二つの機能を持つ駅です。しかしながら、同駅周辺の現状は、観光地の玄関口に相応しいイメージが希薄であるほか、送迎車による駅前広場混雑、同駅周辺のにぎわい・活力の低下などの課題が存在します。

同駅周辺では、土地区画整理事業やまちづくり交付金事業など、行政主導の事業が実施または予定されております。柳川が今後ますます魅力的なまちになるためにも、現状の問題点をクリアし、柳川の将来像にふさわしい駅周辺の整備を目指すことが重要です。

そこで、昨年12月に行政、交通事業者、地元関係団体等で「柳川駅周辺まちづくりワークショップ」を実施し、今年の3月までに開催した全4回のワークショップにおいて、今後の柳川駅及び同駅周辺がどのような機能や空間を有するべきかを協働で議論した結果、①駅東西の役割分担と連携、②掘割と駅の連結、③商店街等へつながる歩行者ネットワークの形成、の3つの方針を実現方策としてとりまとめました。

今回のワークショップ成果の提言が今後の西鉄柳川駅周辺事業に活用され、観光と生活の拠点形成に寄与することができればと考えております。

詳細につきましては下記の通りです。

記

◆柳川駅周辺まちづくりワークショップの概要

開催時期	平成20年12月6日～平成21年3月19日(全4回)
座長	出口 敦 (九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門教授)
趣旨	送迎車による混雑や商店街の衰退など複数の課題がある西鉄柳川駅周辺で、同駅及び同駅周辺が将来有するべき機能や空間について、地元関係者が協働で検討することで、現在の課題を解決すると共に、関係者が今後の方向性を共有し、実現へ向けた取り組みを加速する。

構成メンバー (順不同) 柳川市観光協会、柳川商工会議所、三橋町商工会(現:柳川市商工会)、柳川商店街振興組合、立花通り商店会、西鉄通り商店会、筑後川流域連携倶楽部、水の会、NPO 法人有明会、行政区長、西鉄柳川駅利用モニター、九州地方整備局、福岡県、柳川市、西日本鉄道(株)、出口敦(九州大学)、辰巳浩(九州産業大学)

◆「柳川駅周辺まちづくりワークショップ」成果の金子健次・柳川市長への提言について

(提 言)

日 時 平成 21 年 7 月 16 日(木) 14 時 30 分から(15～20 分程度)

場 所 柳川市役所 ※非公開にて行います。

出席者 金子 健次 (柳川市長)
出口 敦 (「柳川駅周辺まちづくりワークショップ」座長)
高崎 繁行 (西日本鉄道(株)取締役執行役員経営企画本部長)

ほか

(記者会見)

日 時 平成 21 年 7 月 16 日(木) 14 時 50 分から(30 分程度)

場 所 柳川市役所 3 階 庁議室

出席者 金子 健次 (柳川市長)
出口 敦 (「柳川駅周辺まちづくりワークショップ」座長)
高崎 繁行 (西日本鉄道(株)取締役執行役員経営企画本部長)

ほか

内 容 提言書の受け渡し、出口座長による説明と質疑応答

◆提言内容の骨子

1. 駅東西の役割分担と連携

駅周辺の柳川らしい景観とにぎわいの形成により、ゆとりと潤いのある生活空間を形成するとともに、駅東西の役割分担と空間的な連結により、限られたスペースの有効活用と、利便性向上を目指す。

2. 掘割と駅の連結

観光の玄関口として、柳川らしい水とにぎわいのある魅力的な駅前空間を形成する。

3. 商店街等へつながる歩行者ネットワークの形成

柳川の特長を生かした歩行者ネットワークの整備により、駅と商店街の動線を強化し、まちのにぎわいを形成する。

※なお、本提言は、「柳川駅周辺まちづくりワークショップ」の意見をまとめたもので、事業化が決定したものではありません。事業化については、継続して検討する必要があります。